

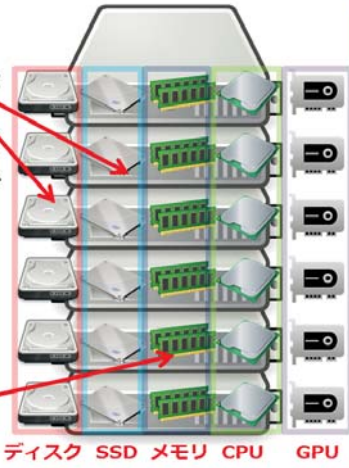
ORION SS

共有リソース

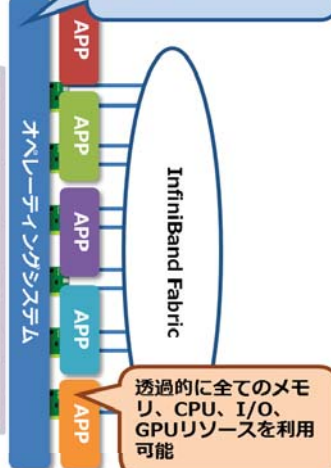
ソフトウェアRAIDなどの構成によって、同時に複数のHDDドライブへのアクセスが可能

また、各ノードにSSDなどの高速デバイスを搭載して、それらを共有して、大きなリソースプールとすることも可能

tmpfs/ramfsなどのメモリファイルシステムを利用することで、より高速なIO処理が可能

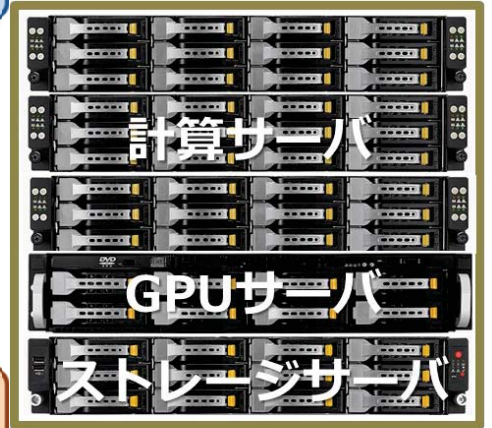


シングルメモリアドレス
全てのリソースへのアクセスが可能



透過的に全てのメモリ、CPU、I/O、GPUリソースを利用可能

シングルOS



すべてのリソース共有



ORION RS

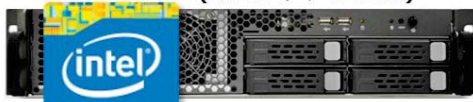


- ・実装密度に優れた最新プロセッサ搭載ラックサーバ
- ・InfiniBandや10/40GbEなどのインターフェイス
- ・豊富な周辺機器オプションとGPU搭載オプション

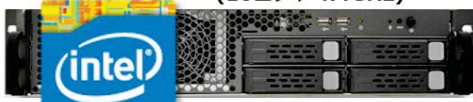
ORION HF



ORION HF320D-G3
(2U / 2ノードサーバ)
Core i7-6900K
(2x8コア、4.6/4.7GHz)
Core i7-6950X
(2x10コア、4.4GHz)



ORION HF320-G3
Core i7-6900K
(8コア、4.6/4.7GHz)
Core i7-5960X
(10コア、4.4GHz)



ORION HF620-G3
(デュアルソケット)
Xeon E5-2600 v4
Xeon E5-2600 v3

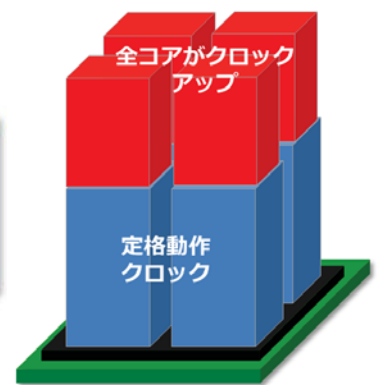


KRONOS 840-G3
Core i7-6900K
(8コア、4.4GHz)
Core i7-6950X
(10コア、4.3GHz)



KRONOS 940-G3
(デュアルソケット)
Xeon E5-2600 v4
Xeon E5-2600 v3

オーバークロック



- ・ターボブーストで設定された上限値以上に、全プロセッサコアの動作クロックをアップ
- ・動作周波数は、ユーザが設定することが可能
- ・消費電力や発熱の増加、信頼性・安定性の低下のリスクがあり、それらの克服が課題

KRONOS

詳しくは www.sstc.co.jp をご覧ください。

sstc

検索

